

旭地区の誇り

福井の学問発祥の地「旭」



福井藩13代藩主^{はるよし}好のとき、文政2年(1819)に旭地区の桜の馬場(現在の旭小学校)に学問所「正義堂」が創設された。武士の子弟だけではなく、誰もが入学できる開かれた学問所であった。福井藩が武芸から学問を重視する藩へと大きく転換した。吉田^{とうごう}東篁は最初の入学生であり後に教師となり、橋本左内、本多修理、鈴木^{ちから}主税、村田^{うじひさ}氏寿をはじめ、杉田定一など明治維新における福井藩の中心人物は、ほとんど吉田東篁の門人であり、東篁によって教えられた偉才ばかりであった。



唯一の本県出身総理大臣である岡田啓介や世界的に声望のある地震学者の大森房吉、二・二六事件で殉職した松尾傳蔵大佐、国文学の父といわれる^{はがやいち}芳賀矢一、未完の陶工塚原芥山など枚挙にいとまがない。



私達福井市民が誇るべき先人を数多く輩出してきたが、歴史と伝統を重んじる地でもある。火産霊神社に伝わる県無形民俗文化財の「馬鹿ばやし」や杉社白髭神社の「七夜踊り」などの伝統行事が、連綿と現在に受け継がれている。



馬鹿ばやし保存会会長、旭散歩歴史塾塾長
渡辺 本爾さん

馬鹿ばやし保存会の会長を平成24年から受け継ぎ、後継者育成のため「子ども馬鹿ばやし」として保存に取り組んでいる。平成27年に「旭区史」を編集し、同年旭区民が参加する「旭散歩歴史塾」を結成し、塾長となる。

旭公民館

住 所／福井市手寄2-1-1
電 話／0776-20-5364
交通機関／JR「福井駅」から徒歩5分